

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-289832

(43) 公開日 平成8年(1996)11月5日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 G 7/02			A 4 7 G 7/02	G
A 4 7 H 27/00			A 4 7 H 27/00	

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-120437

(22) 出願日 平成7年(1995)4月24日

(71) 出願人 000191098

新日本コア株式会社

北海道札幌市手稲区曙5条5丁目5番1号

(72) 発明者 川崎 淑子

滋賀県坂田郡米原町入江1411-1

(72) 発明者 加藤 望

東京都杉並区松庵1-22-11

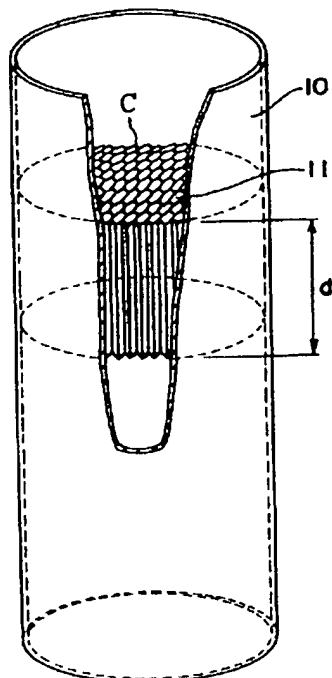
(74) 代理人 弁理士 朝倉 正幸 (外1名)

(54) 【発明の名称】 ハニカム構造体の生花保持具

(57) 【要約】

【目的】 水盛用にも花瓶用にも鉄またはカッタ切断により簡単に適用できて、しかも繰返し使用可能な生花保持具を提供すること。

【構成】 無色透明又は半透明、或いは種々に着色した合成樹脂シートを主体に用いたハニカム構造体で、当該構造体を構成するセル方向に生花の茎を挿通すると共に、前記構造体のセルと直交する方向には弾力性を有することを利用して前記直交方向にハニカム構造体を圧縮しつつ容器内の任意の位置および高さに固定する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 熱可塑性合成樹脂シートまたは熱硬化性樹脂シートから成るハニカム構造体を主体に用い、かつ当該構造体を構成するセルの軸線方向に生花を挿通するようにし、さらに前記軸線と直交する方向には弾力性を示す性質を有することを利用して前記直交方向を水盤または花瓶状容器の内壁面に添わせつつ、当該容器内に前記ハニカム構造体を無理嵌めして固定するようにしたことを特徴とする生花保持具。

【請求項2】 熱可塑性合成樹脂シートまたは熱硬化性樹脂シートから成るハニカム構造体を主体に用い、かつ当該構造体を構成するセルの軸線方向に生花を挿通するようにし、さらに前記軸線と直交する方向を圧縮して水盤または花瓶状容器の内壁面に圧入するようにした生花保持具。

【請求項3】 無色透明又は半透明で、厚さ30～150μmの合成樹脂シートから成るハニカム構造体で、セル径が1～5cmを有するものを、任意形状の花器状または水盤状容器の内側輪郭より大きい寸法に截断し、さらにその構造体を任意の深さないしは高さに截断し、このものを該容器の内側へ圧入するようにした生花保持具。

【請求項4】 ハニカム構造体を着色して成る請求項1ないし3の何れかに記載のハニカム構造体の生花保持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、水盤や花瓶など、一般の花器に生花を挿したとき、生花の枝の位置と姿勢を保持するための汎用的な生花保持具に関する。

【0002】

【従来の技術】古来、生花の枝の位置と姿勢を保持するため、水盤においては剣山に枝を差し、花瓶においては、二又になった天然の枝を挿入して保持具としてきたが、最近においては簡易型の生花保持具が種々考案されている。古くから知られている前記剣山は、花枝を針山に突き刺すものであるから細胞を壊してしまうという欠点がある。本発明はかかる欠点のない簡易形の生花保持具を開発したものである。本発明に関連のあるものを例示すると図8～13に示すとおりで、このうち図8に示すもの（実開平6-55666公報参照）は、上下2段に間隔を保って水平に配置したネット状の花受棚21及び22を垂直支柱20で固定し、これをさらに吸盤23によって花器の底面に固着したうえ、ネット21及び22の任意の柵目に花枝を挿通してその位置と姿勢を保持するようにした構成である。また、実開平6-33570では、図9のように上下2段に間隔を保って水平に配置した上部花受板31及び下部花受板32を垂直支柱30で固定し、これをさらに吸盤23によって花器の底面に固着したうえ、上部花受板31の任意の孔33に花枝を

挿通し、枝先端を下部花受板32に設けたズレ止め突起34に突き刺して花枝の位置と姿勢を保持するようにしている。さらに実開平5-34975では、図10～11のように、上面開口形の金属棒40の内部に吸水性スポンジ41を充填した上で、その上面に金網42を設け、当該金網における任意の網目を通して花枝をスポンジ41の中に突き刺して花枝の位置と姿勢を保持するようにしている。前記した3例は、いずれも水盤状花器に適用すべきもので花瓶状花器には適していない。

10 【0003】花瓶状花器に適用するものとしては図12～13に示すものが知られている（実開平4-32152参照）。このものは、保持板50の弾性支持肢53の先端爪54を花器10の上縁に引っ掛けて固定した上、孔51に花枝13を挿通してその位置と姿勢を保持させるもので、その際、図13のように保持板50から両側に手をひろげたようにして設けた弾性補助肢52を花器10の内壁面に突っ張らせ、それによって保持板50の位置をより安定に保持することができるとしている。

【0004】

20 【本発明が解決すべき課題】図8～9に示すものは、いずれも2枚のネット又は多孔板を支柱によって上下に配置し吸盤で固定するものであるから、製作にはかなりの手数を要する。また図10～11に示すものはスポンジに花枝を突き刺すのでスポンジが傷つくので、生花を挿し替えるときにはスポンジも詰め替えなければならないし、その上では当該スポンジの粉が花枝の切り口に付着して吸水を妨げるという不具合も免れない。

30 【0005】一方、図12～13に示すものは、花瓶の口径に合わせて弾性支持肢や弾性保持肢を製作する必要があるが、しかも花枝の位置を1個の孔だけで保持するので花枝の姿勢が安定しにくい。そして、これら考案による保持具は、いずれも水盤状花器か花瓶状花器かのいずれか一方にしか適用できない、という欠点があった。

【0006】

40 【課題を解決するための手段】かかる実情に鑑み、本発明は水盤用にも花瓶用にも適用し得るようにした新規な生花保持具を提供せんとしたもので、このものは次のような構成であるため、手動のカット等によっても容易に切断でき、したがって任意の形状をした水盤または花瓶に簡単に装着することができる。

50 【0007】すなわち、本発明による生花保持具は、熱可塑性合成樹脂または熱硬化性樹脂を主体とした（以下、単にプラスチック製と略称する）ハニカム構造体で構成させ、かつ当該構造体がハニカムを形成するセルの軸線方向（以下、セル方向と略称する）には剛直な強度を発揮するが、前記軸線と直交する方向には弾力性を示す性質を有することに着目して、当該ハニカム構造体のセル方向に沿い、当該セル内に生花または花枝の茎を挿通させ、一方、前記特性の一つであるセル方向と直交する方向には弾力性ないしは可撓性を有することを利用し

3

て、セル方向と直交する方向を水盤または花瓶の内壁面に添わせつつ水盤または花瓶内に無理嵌めして固定するようにしたことを特徴とする。

【0008】また、前記の前記のハニカム構造体はプラスチック製であるところから、工具としての鋏またカッターなどにより容易に切断できるので、使用に当っては水盤または花瓶などの寸法に応じて任意の大きさに切断することができる。その上では、強度の耐水性を有するので、繰返しての再使用も可能である。

【0009】ちなみに、本発明による生花保持具は、これをプラスチック製とすることを要し、好ましくは無色透明又は半透明とするのがよい。それは挿入する生花を色彩的に引き立てるためであるから、必要に応じ適宜な色彩に着色することも固より差し支えない。また、当該ハニカム構造体における板厚は、これを30~150 μ m、セル径(図2~3の符号1...Lの小文字参照)はこれを1~5cmとするのがよい。

【0010】

【実施例】図1は、本発明の生花保持具を、コップなどのキッチン用品を花瓶状花器に見立ててその中に収納した(圧入した)事例を示す実施例で、ハニカム構造体11の輪郭を前記した花器状容器10の内側輪郭よりやや大きく、かつ深さはこれを任意の寸法にカットで切断した上で、花器10の内側へ圧入する。ハニカム構造体11は、花器10の内壁面との間の摩擦力によって固定されるから、多数存在する任意のセルc内に花枝を挿通して花器10のなかに水を満たすと、生花は挿通された位置とその姿勢を保持した状態で保持され、かつ吸水によって枯死を防ぐことができる。

【0011】本発明におけるハニカム構造体の平面形状は、文字どおりに蜂の巣状形態を呈しているものから、図3のように断面四角形のもの、あるいは図示を省略したロールコア形状のものまでも含み、本明細書ではこれらを総称して「ハニカム構造体」という。また、ハニカム構造体を構成する素材シートとしては、前述のように熱可塑性または熱硬化性の樹脂をもちいるのが、軽量で耐食性があるのでよく、さらに好ましくは塩化ビニール、PET、PP等の合成樹脂を用いるのが適当であり、シート厚は、ハニカム構造体に適度の剛性を保持させるため、25~150 μ mが適当であり、一方、セル径は1~5cm程度とするのがよい。また、素材合成樹脂シートはこれを無色透明もしくは半透明としてもよいし、或いは種々に着色したものを使用してもよい。

【0012】ハニカム構造体11の高さ(深さ)dも用途に応じて種々に設定でき、前記寸法も輪郭の切断と同時にカットで簡単に設定できる。なお、予め数種の深さdを有するハニカム構造体11を準備しておけば、その都度深さdに合わせてカット切断する手間が省けるので、さらに実用的である。

【0013】図4は花瓶状花器に対する別の実施例を示

4

したもので、セルcの径lが比較的大きくかつ深さdの小さい保持具(ハニカム構造体11)を花器10内において上下方向において適当な間隔を保って2個圧入した事例である。そして、両保持具11に設けられた多数のセルの中から任意の組合わせを選択して花枝13を挿通すれば、生花の姿勢を垂直にも斜めにも任意の角度で安定に保持することができる。

【0014】図5は本発明を水盤状花器に対して適用した事例で、長方形の水盤状花器10aの相対向する内壁間に、当該内壁間距離もやや長く切断したハニカム構造体の保持具11aを圧入すると共に、垂直から斜め方向に傾けて固定する。そして保持具11a中の任意のセルcを選び、その中にはな枝を挿通すれば該保持具の固定方向に応じて生花の姿勢を任意に傾斜させた状態で保持することができる。

【0015】図6は水盤状花器10の対向する内壁間に2個のハニカム構造保持具11を並列に圧入すると共に、一方は垂直方向に、他方は斜め方向に固定した事例である。このものを図7のような階段状の花壇に配置し、さらに花枝13の長さを適当に組み合わせた後これらを垂直方向保持具11と斜め方向保持具11aとに分けて挿通するようにすれば、枝先の花を連続した斜面状に並べて展開することができる。

【0016】

【効果】合成樹脂製のハニカム構造体は、大量かつ安価に供給されており、本発明はこの構造体がセル方向には剛直であってもそれに直交する方向には弾力性を有することを利用して、そのものを前記の直交方向に圧縮しつつ適宜の花器内に嵌め込み、同時に該構造体の固定位置をも調節することにより、生花を素材の大小、形にかかわらず任意の方向に安定に固定することができるという効果を奏する。

【0017】その上では、本発明のハニカム構造体は、簡単に鋏、カッター等で輪郭を切断することができるので、水盤状花器にも花瓶状花器にも適用可能であり、用途の広い生花保持具となし得るうえ、生花を挿しても損傷しないので何度でも挿し替えて使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のハニカム構造体を花瓶状容器に装着した場合を示す斜視図。

【図2】平面が蜂の巣状のハニカム構造から成る生花保持具の斜視図。

【図3】平面が4角形状のハニカム構造体から成る生花保持具の斜視図。

【図4】本発明の生花保持具を花瓶状花器内において上下2層に装着した場合の実施例を示す断面図。

【図5】本発明の生花保持具を水盤状の容器に適用した場合を示す斜視図。

【図6】本発明の生花保持具を水盤状花器に使用したと

5

きの別の実施例を示す斜視図。

【図7】図6の水盤状花器をを階段状に配置した場合を説明するもので、花壇全体の側面図。

【図8】水盤状花器における従来形の保持具の第1例を示す斜視図。

【図9】水盤状花器における従来形保持具の第2例を示す斜視図。

【図10】水盤状花器における従来形保持具の第3例の側断面図。

6

【図11】図10の平面図。

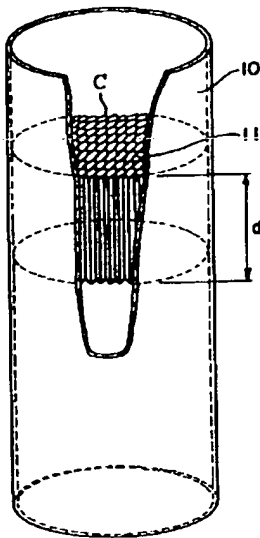
【図12】花瓶状花器に適用された従来形保持具の一例を示す斜視図。

【図13】図12の応用例を示す斜視図。

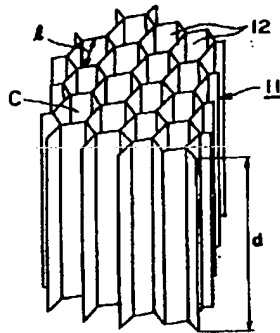
【符号の説明】

- 10 花器または水盤状の容器
- 11 ハニカム構造体
- 12 ハニカムを構成するセル
- 13 花枝

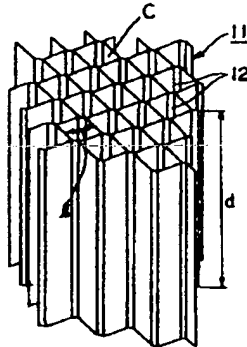
【図1】



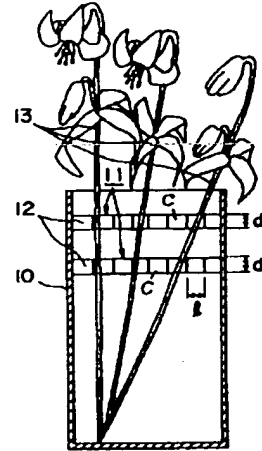
【図2】



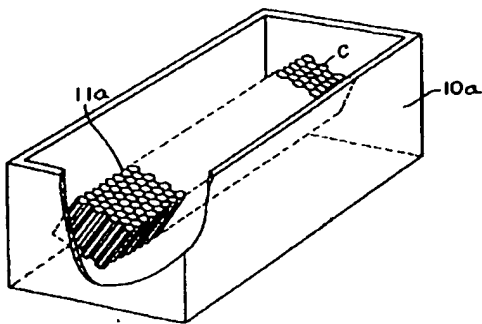
【図3】



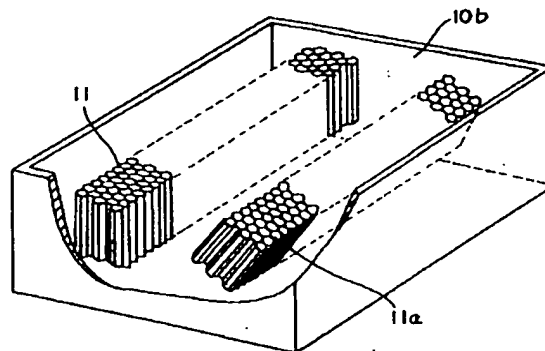
【図4】



【図5】



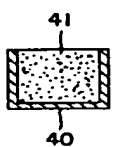
【図6】



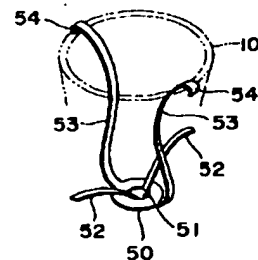
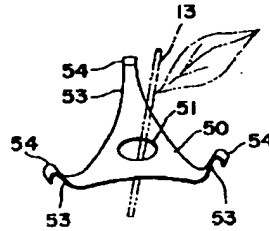
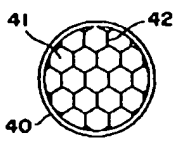
【図12】

【図13】

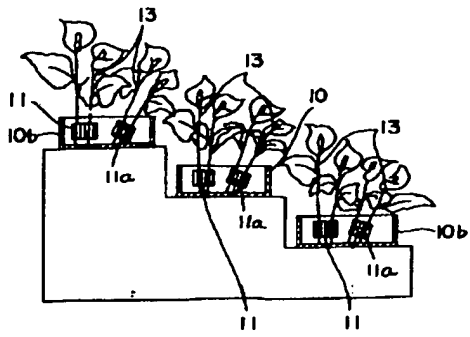
【図10】



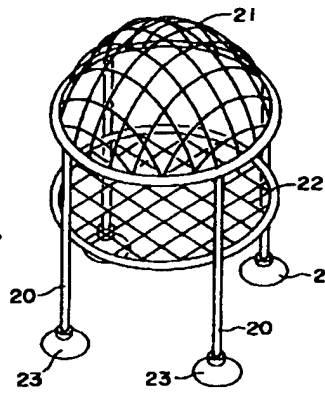
【図11】



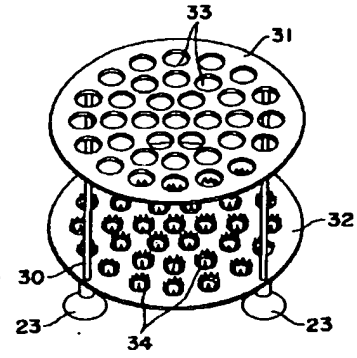
【図7】



【図8】



【図9】



CLIPPEDIMAGE= JP408289832A

PAT-NO: JP408289832A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08289832 A

TITLE: LIVE FLOWER HOLDING TOOL OF HONEYCOMB
STRUCTURE

PUBN-DATE: November 5, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KAWASAKI, YOSHIKO

KATO, NOZOMI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SHIN NIPPON KOA KK

N/A

APPL-NO: JP07120437

APPL-DATE: April 24, 1995

INT-CL (IPC): A47G007/02;A47H027/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To stably fix live flowers in an optional direction regardless of the size and the shape of a material by force-fitting a honeycomb structure composed of a synthetic resin sheet to the inner wall surface of a flower vase or a vase-like container while turning the axial direction of the cell of the honeycomb structure in a vertical direction.

CONSTITUTION: After the contour of the honeycomb structure 11 is cut to the

dimension of an optional depth slightly larger than the inner side contour of the vase-like container 10 by a cutter, it is force-fitted to the inner side of the vase 10. Since the honeycomb structure 11 is fixed by frictional force against the inner wall surface of the vase 10, when flower branches are inserted inside the optional cells (c) present in a large number and water is filled in the vase 10, the inserted position and the posture of the live flowers are held and their death due to dryness is prevented by water absorption. As the material sheet for constituting the honeycomb structure 11, a synthetic resin sheet having the thickness of 30-150 μ m composed of a colorless and transparent or translucent thermoplastic synthetic resin or a thermosetting resin is used and diameter of the cell is defined as 1-5cm.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO